



CAN-Japan 国際セミナー

パリ協定のルールブック交渉 バンコク会議・COP24に向けたこれからの展開

WWFジャパン
気候変動・エネルギーグループ長
山岸 尚之

2018年8月22日（水）



今年の2つのテーマ

- パリ協定のルールブックの策定
- タラノア対話を経て、
野心（ambition）強化に向けた決定



今年の予定

4月30日～5月10日
ドイツ・ボン

パリ協定特別作業部会
第1回第5セッション
(APA1-5)
補助機関第48回会合
(SB48)

9月4日～9月9日
タイ・バンコク

パリ協定特別作業部会
第1回第6セッション
(APA1-6)
補助機関第48回再開会合
(SB48-2)

12月3日～12月14日
ポーランド・カトヴィツェ

国連気候変動枠組条約
第24回締約国会議
(COP24)

パリ協定のルールブック
(実施指針) に合意予定

タラノア対話：準備フェーズ

タラノア対話：
政治フェーズ

「野心」強化に向けた決定？



ルールブック交渉

今は何を話し合っているのか？

2015

パリ協定の採択

2016

パリ協定の発効

2017

ルールブック策定に向けた交渉

2018

パリ協定の「ルールブック」完成

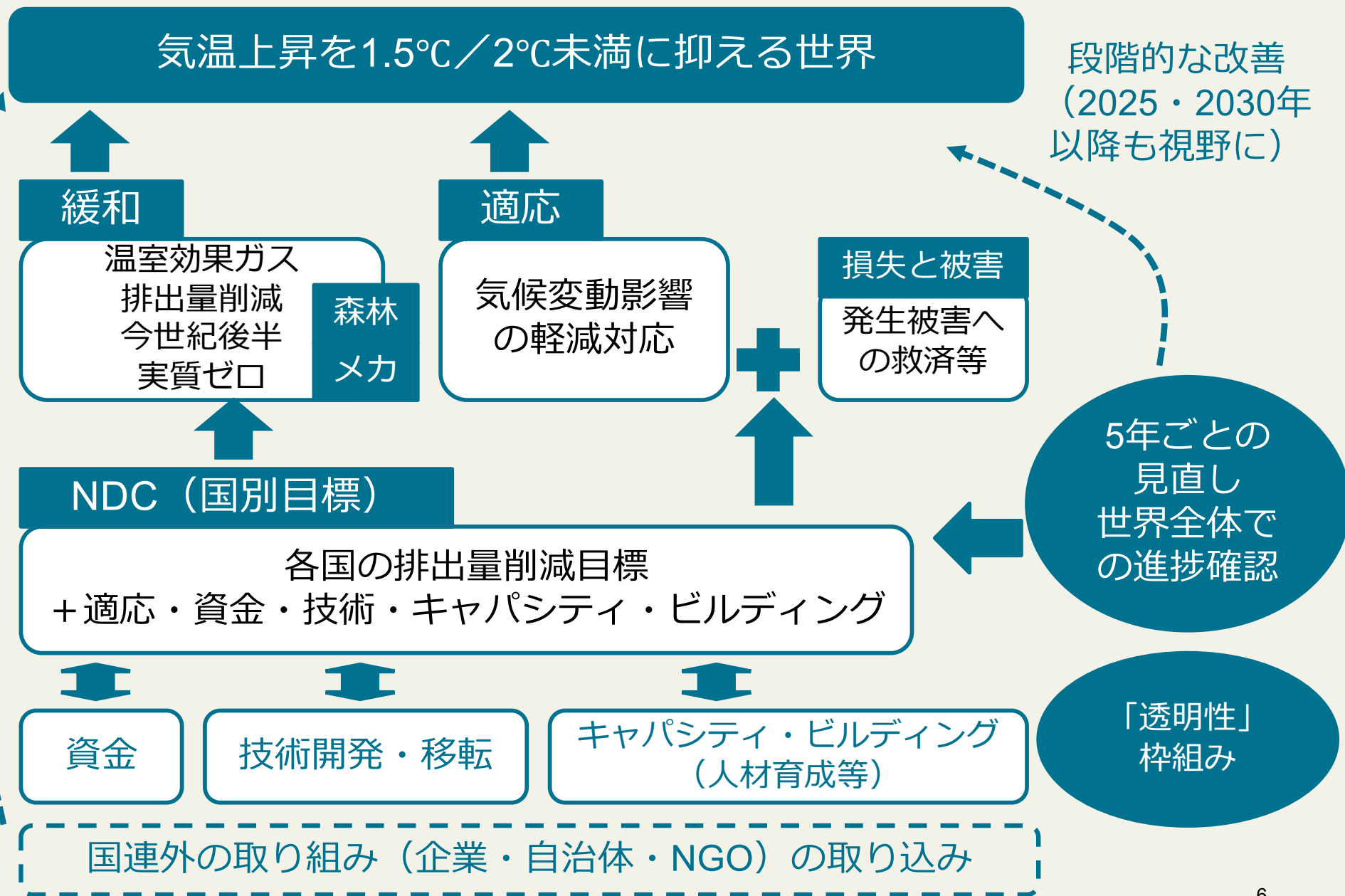


2020

パリ協定の実施へ



パリ協定の全体像





パリ協定特別作業部会（APA）の議題

議題項目（数字が議題の番号）	内容
3	国別目標（NDC）への指針 <p>（次回以降の）国別目標に<u>何を</u>書き、<u>どうやってその進捗や達成を測る</u>のか。「特徴（features）」「情報（information）」「算定（accounting）」と呼ばれる3つのサブトピックがある。</p>
4	適応報告への指針 <p>適応報告に<u>何を</u>書くのか。現状、適応対策を報告する仕組みは、上記NDCも含め、この「適応報告」以外にも複数あるため、共通・差別化された指針を作るのかどうか</p>
5	透明性枠組みの様式・手続き・ガイドライン <p>各国に<u>どのように</u>取り組みを報告させ、それを<u>国際的にチェック</u>するのか。「様式、手続き、ガイドライン」の略称として「MPGs」という言葉が使われる。</p>
6	グローバル・ストックテイクに関する事項 <p>5年ごとの世界全体での進捗確認は、<u>どのような情報</u>を基に<u>どう行う</u>のか</p>
7	実施促進・遵守推進委員会の様式および手続き <p>どのように、各国が<u>国別目標を守るように</u>促すか。<u>万が一守れなかった場合</u>はどうか</p>
8	その他の事項 <p>上記には含まれないルール関連事項 ・ 適応基金の扱い ・ パリ協定9条5項の下での資金支援に関する情報提供のあり方 等</p>



SBの議題（主要なもののみ）

SBI（実施に関する補助機関）

議題項目（数字が議題の番号）	内容
5	共通のタイムフレーム 次の国別目標の <u>目標年は「2035年」か「2040年」か</u>
6	国別目標（NDC）に関する登録簿の様式・手続き <u>国別目標（NDC）の登録簿</u> にどのような機能を持たせるか
7	適応報告に関する登録簿の様式・手続き <u>適応報告の登録簿</u> にどのような機能を持たせるか
15	気候資金に関わる事項 先進国（および自主的な資金支援国）は <u>資金支援に関してどのような情報を</u> 提示するか

SBSTA（科学的・技術的な助言に関する補助機関）

議題項目（数字が議題の番号）	内容
12	パリ協定6条に関わる事項 <u>新しい市場メカニズムおよび非市場メカニズム</u> をどのように設計するか
13	パリ協定第9条7項の下で、公的介入により供与・動員された資金の算定に関する様式 先進国（および自主的な資金支援国）が行う供与・動員は <u>どのように算定</u> されるか

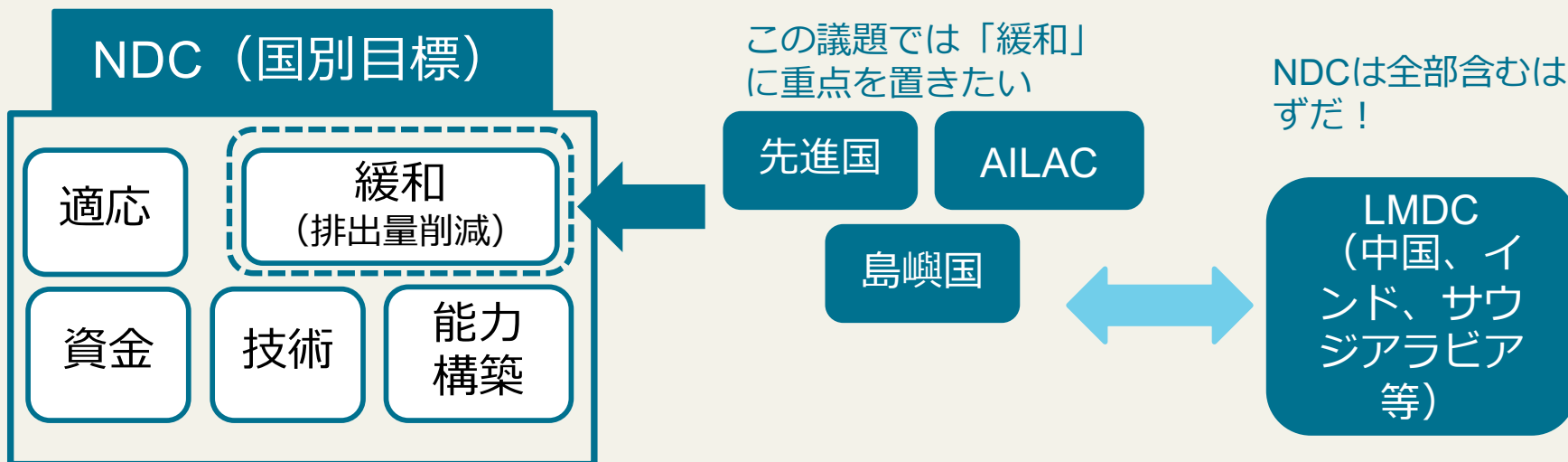




主な対立点

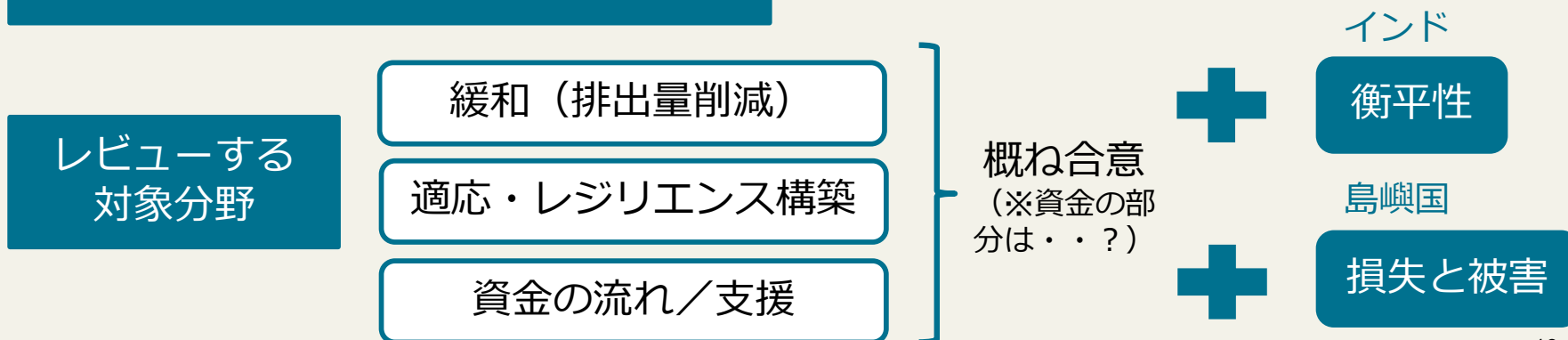
例1：NDCに対するガイダンス (APA議題項目3)

= 目標達成の確認の仕方、次回目標を作る際には、何を書くべきか



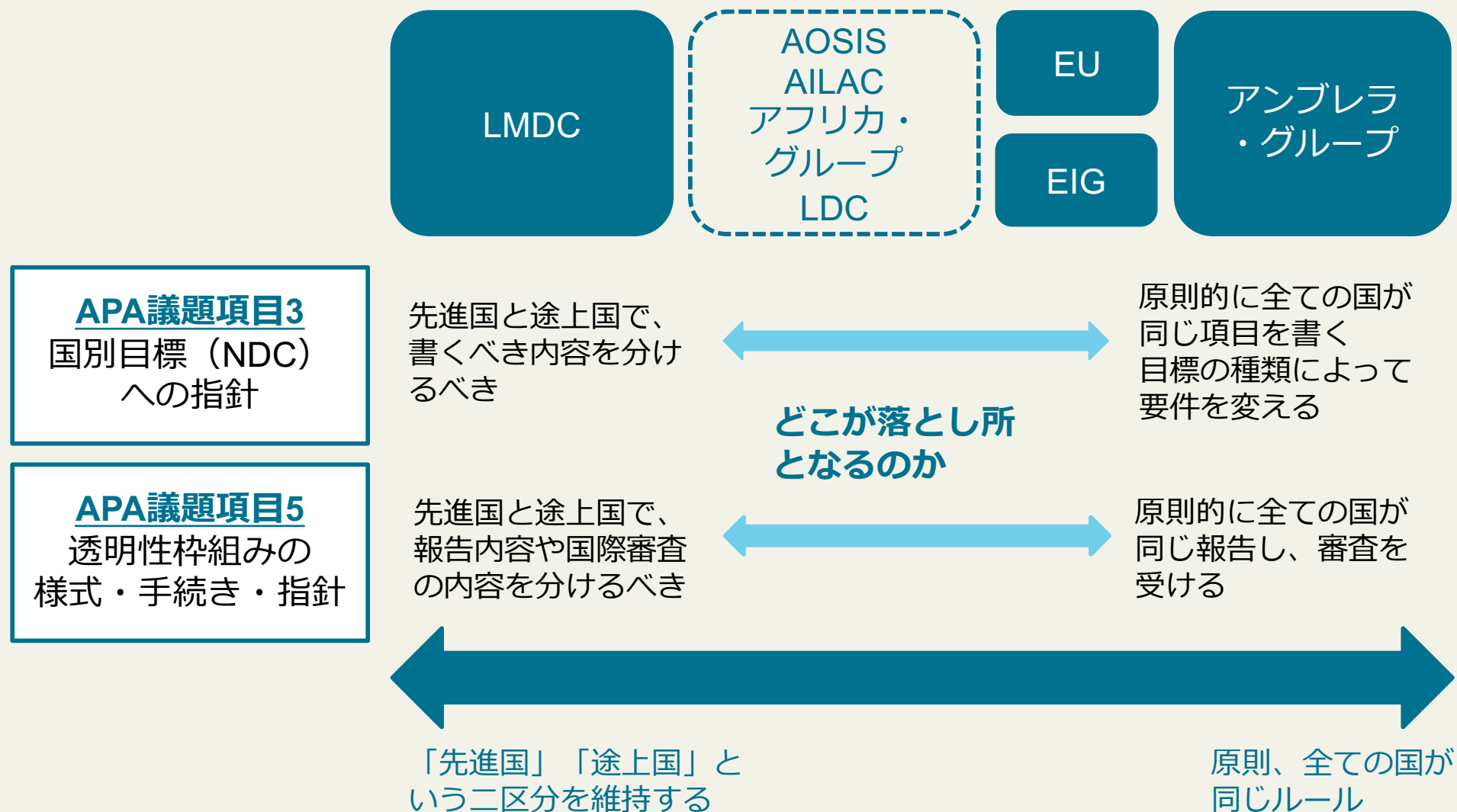
例2：グローバル・ストックテイク (APA議題項目6)

= 5年ごとの世界的な対策のレビューは、何を情報源として、どのように行うのか





交渉の難点：依然として続く差異化をめぐる対立



※上記2つの議題項目以外にも「差異化」の議論は登場する。ここではあくまで代表例として2つの議題項目を取り上げた。



9月のバンコク会議のポイント

■ 8月冒頭発表の「追加的ツール」

- APAの共同議長が「ツール」と呼ばれる文書を作成
 - ・ インフォーマル・ノートを少しまとめた
- いわゆる「交渉テキスト」ではない

■ 9月のバンコク会合

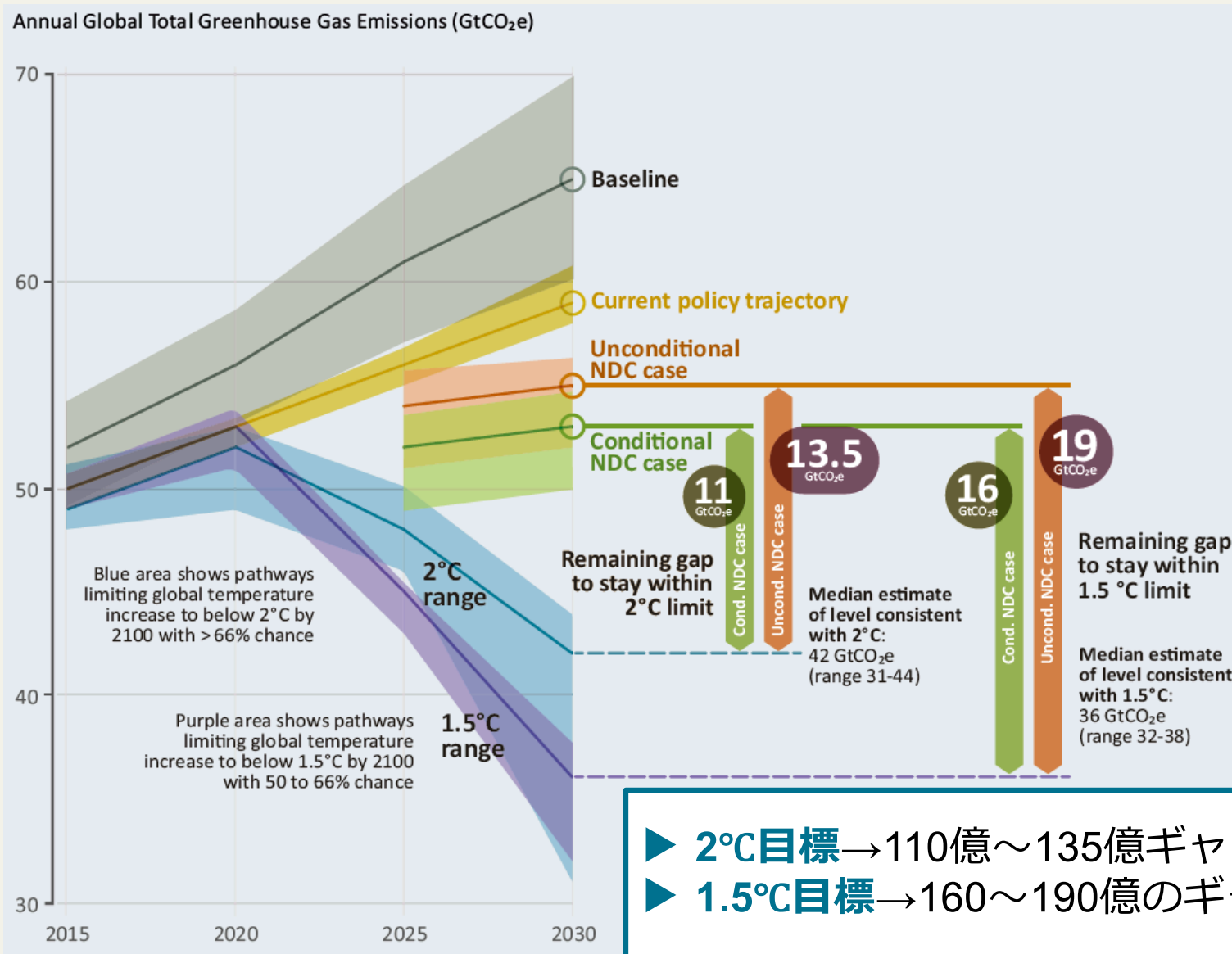
- 議長に「交渉テキスト」を作る権限を与えることができるか？



タラノア対話



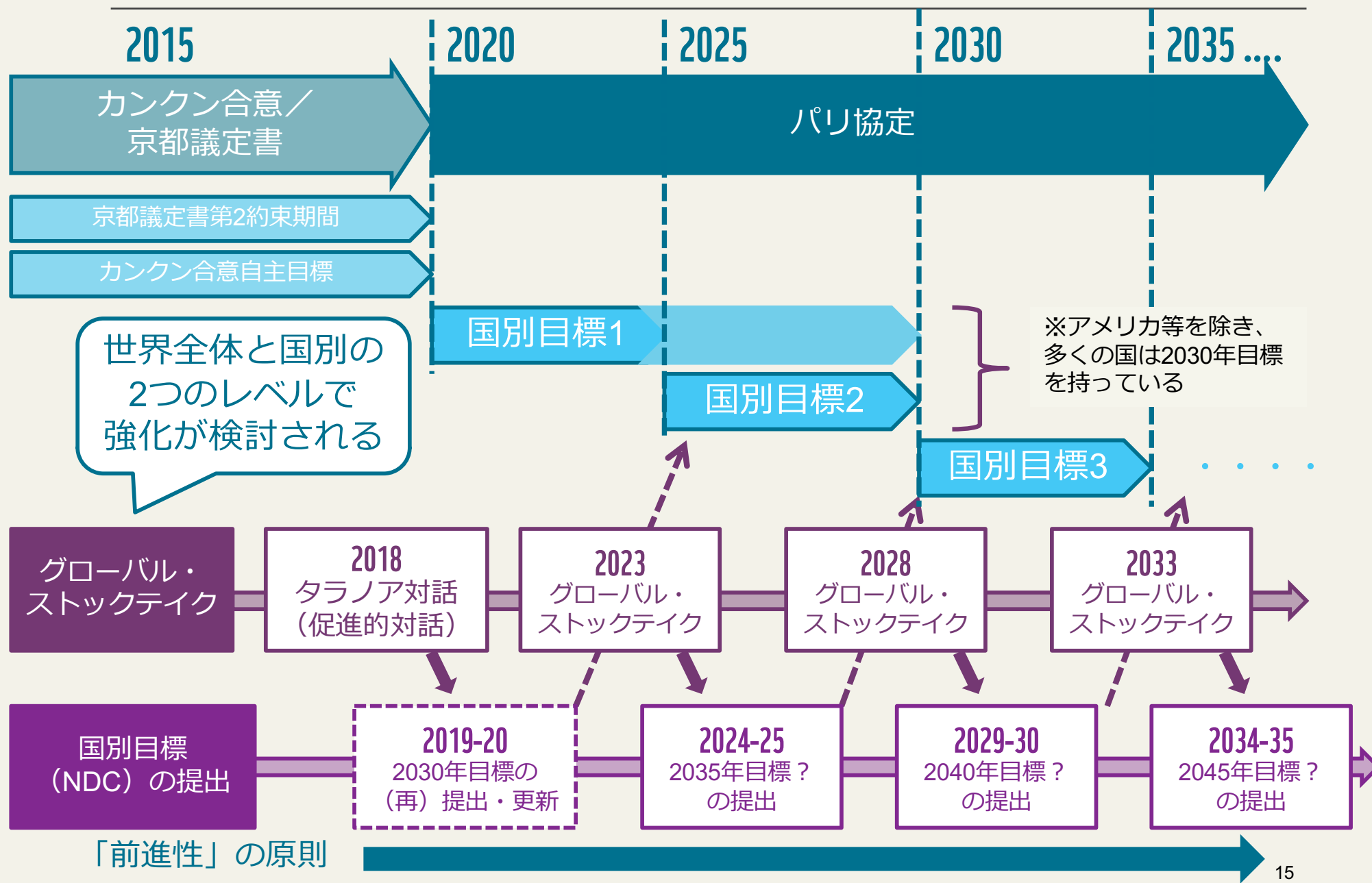
UNEPの報告書が示す大きなギャップ



(出所) UNEP (2017) *The Emission Gap Report: An UN Environment Synthesis Report*. UNEP.



タラノア対話の意義 = 5年サイクルの最初



これまでのタラノア対話



- 特設のウェブサイトを通じて、意見を収集
- 各国・各地域での独自開催も呼びかけ
→ブラジル、EU等で開催

3つの質問

- 現状どこにいるのか？
 - どこに到達したいのか？
 - どのように到達するのか？
- + 「2020年までの取り組み」も

- 5月の国連会議（ボン）の会期中の日曜日には、各国交渉官と非国家アクター代表を集めての対話が行われた





鍵を握る「非国家アクター」による気運作り



- カリフォルニア州主催
- 日程：2018年9月12～14日 ジャヤトマ・ウィクラマナヤケ・ユース担当事務総長特使
- 場所：サンフランシスコ
- 共同議長は、ブラウン加州知事、エスピノーザUNFCCC事務局長、マヒンドラ・マヒンドラグループ会長、ブルームバーグ国連気候変動対策特使、解振華・気候変動事務特別代表、ジャヤトマ・ウィクラマナヤケ・ユース担当国連事務総長特使



JCI 気候変動イニシアティブ Japan Climate Initiative

- 日本の非国家アクターが集結
- 2018年7月6日立ち上げ：当初は105団体
→約170団体にまで拡大中
- 日本を脱炭素化の最前線に



COP24のポイント

■ 政治的フェーズの役割

- 閣僚たちにどのような議論をさせるのか？

■ アウトプット

- 建設的な対話を経て、何を打ち出すのか？
- どれくらい具体的に、「野心の強化」の必要性を打ち出せるか？



これからもご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます

<http://www.wwf.or.jp/join/>
<http://shop.wwf.or.jp>



主要グループ

※この図は網羅的ではありません。また、一部、メンバー国の重なりを反映できておりません。

